

平成30年度～令和2年度 市内遺跡緊急発掘調査報告書

平成三十年度～令和二年度

市内遺跡緊急発掘調査報告書

二〇二二(令和四)年三月

長野県飯田市教育委員会

2022(令和4)年3月

長野県飯田市教育委員会

平成 30 年度～令和 2 年度
市内遺跡緊急発掘調査報告書

2022(令和 4)年 3 月

長野県飯田市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成30～令和2年度にかけて国庫補助事業国宝重要文化財等保存・活用事業として実施した、飯田市内遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本書の作成は、令和3年度の国庫補助事業国宝重要文化財等保存・活用事業として実施した。
- 3 本書掲載の発掘調査および整理作業は、飯田市教育委員会（令和2年度まで：生涯学習・スポーツ課、令和3年度：文化財保護活用課）が実施した。
- 4 本書の執筆・編者は春日宇光が行い、馬場保之が総括した。
- 5 調査結果の掲載順は、調査年月日順とした。
- 6 調査写真は各調査担当者が撮影した。
- 7 遺跡、城跡の範囲および古墳の位置その他包蔵地に関する情報については、調査時点で「飯田市埋蔵文化財包蔵地地図」に記載されていた内容に準拠している。当該地図については平成31年2月、令和3年2月にそれぞれ一部改訂を実施したため、本書掲載の地図情報は改訂により変更されている場合がある。
- 8 調査地点の地番に関して、調査後に分筆等により変更された場合は、変更後の地番を掲載した。
- 9 遺跡位置図等に使用した背景図は、飯田市全図（1/25000）および飯田市都市計画基本図（1/2500）を縮小し、任意の縮尺に変更して示した。
複製承認：令和3年6月11日付 3飯地計第113号
- 10 調査区測量については、(株)小林コンサルタント、(有)キリュウに委託した。
- 11 平面図および断面図に用いる遺構等の略称は以下のとおりとした。
小穴（ピット）：P 周溝墓：SZ 石材・自然礫：S
- 12 掲載地図中にて、調査対象の遺跡・城館の範囲は実線、それ以外の遺跡の範囲は破線で表現した。また、現存古墳は黒塗り（●等）、消滅古墳は白抜き（○等）で示した。
- 13 掲載遺物は酸化炎焼成の土器類（縄文土器、土師器、埴輪）および石器である。これらの遺物図面の断面については、白抜きで表現した。
- 14 本書関連の出土遺物および図面・写真類は飯田市教育委員会が管理・保管している。

目 次

例言

第1章 飯田市の環境と埋蔵文化財	1
1 地理的環境	1
2 埋蔵文化財の分布状況	1
第2章 事業の概要	3
1 調査の実施状況	3
2 調査の体制	3
3 調査の方法	4
第3章 調査の結果	6
1 新地遺跡	6
2 別府中島遺跡	6
3 古城城跡・飯沼南原遺跡	10
4 今洞遺跡	14
5 清水上遺跡	16
6 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡	18
7 妙前遺跡・妙前大塚古墳	24
8 観音原遺跡	28
9 切石遺跡	30
10 内御堂東遺跡	32
11 内山遺跡・久保尻遺跡	32
12 恒川遺跡群（第109次）	36

写真図版

挿図目次

図1 平成30年度～令和2年度市内遺跡緊急発掘調査対象地	5
図2 新地遺跡調査地位位置および調査区	7
図3 別府中島遺跡出土遺物	8
図4 別府中島遺跡調査地位位置および調査区	9
図5 古城城跡・飯沼南原遺跡調査地位位置	11
図6 古城城跡・飯沼南原遺跡調査区	12
図7 古城城跡・飯沼南原遺跡立会時検出堀断面図・古城城跡推定復元図	13
図8 今洞遺跡調査地位位置および調査区	15
図9 清水上遺跡調査地位位置および調査区	17
図10 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査位置	19
図11 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区(1)	20
図12 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区(2)	21
図13 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区(3)	22
図14 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区(4)	23
図15 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査地位位置および調査区	25
図16 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査区平面図・断面図	26
図17 妙前大塚古墳想定復元図	27
図18 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査区出土遺物	27
図19 観音原遺跡位置図	28
図20 観音原遺跡調査区	29
図21 切石遺跡位置および調査区	31
図22 内御堂東遺跡位置および調査区	33
図23 内山遺跡・久保尻遺跡位置および調査区	34
図24 内山遺跡・久保尻遺跡出土遺物	35
図25 恒川遺跡群(第109次調査)調査地位位置および調査区	37

表目次

表1 飯田市における埋蔵文化財等の登録状況	2
表2 飯田市における史跡一覧	2
表3 平成30年度～令和2年度国庫補助緊急発掘調査一覧	3

写真図版目次

写真図版1 新地遺跡調査前 新地遺跡調査区全景 新地遺跡調査区土層	
写真図版2 別府中島遺跡調査中 別府中島遺跡調査区全景 別府中島遺跡調査区土層	
写真図版3 古城城跡調査前(主郭北側から南方向) 同上(主郭内側から北方向) 同上(主郭北の空堀跡)	
写真図版4 古城城跡トレンチ1全景 古城城跡トレンチ1 堀1検出状況 古城城跡トレンチ2全景	
写真図版5 古城城跡トレンチ2土層 古城城跡トレンチ3全景および堀1検出状況 古城城跡トレンチ3土層	
写真図版6 古城城跡工事立会時検出 堀3 古城城跡工事立会時検出 堀1 古城城跡工事立会時検出 堀2	
写真図版7 今洞遺跡調査前 今洞遺跡調査区全景 今洞遺跡調査区土層	
写真図版8 清水上遺跡調査前 清水上遺跡調査区全景 清水上遺跡調査区土層	
写真図版9 花立遺跡・流田遺跡調査前 同上(流田遺跡T3付近) 篠田遺跡調査前	
写真図版10 花立遺跡 T1全景 流田遺跡 T3全景 流田遺跡 T4全景	
写真図版11 流田遺跡 T5全景 流田遺跡 T6全景 流田遺跡 T7全景	
写真図版12 流田遺跡 T8全景 流田遺跡 T8土層 篠田遺跡 T1全景	
写真図版13 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査前	

- 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査区全景
- 写真図版 14 妙前大塚古墳墳裾付近葺石
妙前大塚古墳周溝
同上
- 写真図版 15 観音原遺跡調査前
観音原遺跡調査区全景
観音原遺跡調査区土層
- 写真図版 16 切石遺跡調査前
切石遺跡調査区全景
切石遺跡調査区土層
- 写真図版 17 内御堂東遺跡調査前
内御堂東遺跡調査区全景
内御堂東遺跡調査区土層
- 写真図版 18 内山遺跡・久保尻遺跡調査前
内山遺跡・久保尻遺跡調査区全景
内山遺跡・久保尻遺跡トレンチ 1 土層
- 写真図版 19 恒川遺跡群(第 109 次)調査前
恒川遺跡群(第 109 次)調査区全景
恒川遺跡群(第 109 次)調査区土層
- 写真図版 20 市内遺跡緊急発掘調査出土石器
市内遺跡緊急発掘調査出土土器・埴輪

第1章 飯田市の環境と埋蔵文化財

1 地理的環境

飯田市は長野県南部に位置する内陸の都市であり、標高3000メートル級の高峰が連なる木曾山脈と赤石山脈に挟まれた伊那盆地の南側に位置する。伊那盆地は一般的に「伊那谷」と呼び習わされ、盆地の中央には諏訪湖から発した天竜川が南流する。盆地の北部は比較的開ける一方、南部には高峰が少なく天竜川は川幅を狭めて峡谷を形成しながら太平洋へ向かう。この起伏の合間を縫うように主要な交通路が各地へ伸びており、国道152号（秋葉街道）・国道151号（遠州街道）・国道153号（三州街道）によって静岡県西部・愛知県東部、西は中央自動車道・国道256号（清内路街道）によって木曾谷および岐阜県東部にそれぞれ通じる。

地質環境としては、中部高地から九州まで連続する、日本最大の断層線として知られる中央構造線のすぐ西側に市域の大半が属している。このあたりは領家帯と呼ばれる花崗岩を基盤とする地質構造を特色とする。この基盤岩体の上に河川等の作用で形成された砂礫層や、火山灰等による堆積層が乗ることで基本的な地質構造をなしている。伊那盆地では、山麓部から天竜川河床の間に比高差約数m～60m程度の段丘崖が数段にわたって発達するのが景観上の大きな特色である。段丘の成因は一様ではなく、天竜川や松川の作用による河岸段丘と、断層のずれによって生じた断層崖がある。このように区画された標高差のある平坦面は、念通寺断層付近を境に大きく「上段」（うわだん）と「下段」（しただん）に分かれる。また、それらの段丘面を木曾山脈の前山から天竜川に向けて流れる小河川が区切ることにより、独立した小地域をいくつも形成している。上段や下段の一部にかけては、赤土の名で知られる風成ローム層が堆積し、その下は木曾山脈方面から土石流等により運搬されてきた花崗岩礫が占める。一方、氾濫原が広がる最下段では赤土はほとんどみられず、天竜川に由来する砂礫層が主体となる。

2 埋蔵文化財の分布状況

飯田市内には、現在1214箇所、埋蔵文化財包蔵地が周知されている。表1に示した市内遺跡等の各内訳をみると、遺跡は545箇所、古墳は522箇所を数える。他に城跡や寺院・居館、窯跡等もあり、種別は多岐にわたり、旧石器時代から近世までの人為の痕跡が市内各所に残されている。それらのうち、特に重要な遺跡を史跡として保存し、後世に継承するため保護している（表2）。

旧石器時代の遺跡は少ないが、山本地区の石子原遺跡、竹佐中原遺跡は列島最古級の人類痕跡として知られる。縄文時代を迎えると、座光寺地区の美女遺跡等で早期の集落が形成される。中期に入ると爆発的に集落が増加し、段丘面から中山間地域に至るまで、各所で大規模な集落が営まれた。弥生時代前期の様相はほとんど不明だが、中期後葉から上郷の丹保遺跡などで集落が発達をみせ、後期には段丘上にまで集落が進出し、遺跡数・建物数がピークを迎える。古墳時代前期には集落数は減少する。古墳時代の前期には松尾地区、伊賀良地区で前方後方墳が少数築造されるにとどまるが、中期中葉以降は爆発的に古墳が増加する。近年、中期から後期にかけて飯田市域を中心に築造された前方後円墳・帆立貝形古墳を一体的にとらえ、「飯田古墳群」と呼称している。当古墳群の成立と発展には馬の飼育や生産を管理する集団の存在が想定されており、当時のヤマト王権の政策を顕著に伝えるものとして、前方後円墳11基と帆立貝形古墳2基が国史跡に指定されている。奈良時代に律令制が導入されると当地域は東山道信濃国伊那郡に編入され、座光寺地区に郡衙が置か

第1章 飯田市の環境と埋蔵文化財

れた。同地区の恒川遺跡群では、7世紀後半から10世紀にかけて、正倉院や祭祀遺構などが確認されており、恒川官衙遺跡として正倉院を中心とする一画と恒川清水が国史跡に指定されている。

中世の飯田は伊賀貞直、郊戸庄などの荘園が発達した。伊賀貞直地区などに残る井水群が中世における中・高位段丘の開発を示す遺構である。天竜川西岸城は信濃国守護・小笠原氏が支配し、鎌倉時代には開善寺が創建された。室町から戦国期には段丘崖の突端や独立丘陵を利用し、中世城郭が多数築造された。松尾小笠原氏の松尾城、鈴岡小笠原氏の鈴岡城が代表例である。また、天竜川東岸城は諏訪大社大祝の系譜をひく知久氏が勢力を伸長させ、知久平城や神之峰城といった山城を拠点とし、これらを取り巻くように寺院が配置された。その後、織豊政権を経て幕藩体制期に至るなかで、現在の飯田市街地に城下町が整備され、飯田城を中心に統治が行われた。城下町は京極氏により基盤整備がされ、続いて小笠原氏、脇坂氏、堀氏による統治を経て明治に至った。

表1 飯田市における埋蔵文化財等の登録状況

埋蔵文化財の種類	件数	埋蔵文化財の種類	件数
遺跡	545	寺院跡・居館跡	35
古墳	522	窯跡	30
城跡・砦・烽火台	57	その他の遺跡	25
		合計	1,214

表2 飯田市における史跡一覧

地区	史跡名	指定	時期
座光寺	恒川官衙遺跡	国史跡	古代
座光寺	史跡 飯田古墳群（高岡第1号古墳）	国史跡	古墳
座光寺	南本城城跡	県史跡	中世
座光寺	畦地1号古墳	市史跡	古墳
座光寺	座光寺の石川除	県史跡	近世
上郷	史跡 飯田古墳群（飯沼天神塚《雲彩寺》）古墳）	国史跡	古墳
旧市	鳳越山白山社奥社境内地	市史跡	
松尾	松尾城城跡	県史跡	古墳
松尾	代田山狐塚古墳	県史跡	古墳
松尾	史跡 飯田古墳群（水佐代獅子塚古墳）	国史跡・市史跡	古墳
松尾	史跡 飯田古墳群（御射山獅子塚古墳）	国史跡	古墳
松尾	史跡 飯田古墳群（姫塚古墳）	国史跡	古墳
松尾	史跡 飯田古墳群（上満天神塚古墳）	国史跡	古墳
松尾	史跡 飯田古墳群（おかん塚古墳）	国史跡	古墳
竜丘	史跡 飯田古墳群（御猿堂古墳）	国史跡	古墳
竜丘	史跡 飯田古墳群（馬背塚古墳）	国史跡	古墳
竜丘	史跡 飯田古墳群（塚原二子塚古墳）	国史跡	古墳
竜丘	史跡 飯田古墳群（大塚古墳）	国史跡	古墳
竜丘	史跡 飯田古墳群（鏡塚古墳）	国史跡	古墳
竜丘	史跡 飯田古墳群（鎧塚古墳）	国史跡	古墳
竜丘	鈴岡城城跡	県史跡	中世
下久堅	知久平城跡	市史跡	中世
上久堅	神之峰城跡	市史跡	中世
南信濃	青崩峠	市史跡	

第2章 事業の概要

1 調査の実施状況

埋蔵文化財包蔵地内において掘削を伴う開発行為が行われる場合は、文化財保護法に基づき保護措置が必要となる。開発の内容によって発掘調査を要すると判断された案件のうち、個人事業もしくは地下の埋蔵文化財の分布状況が不明である地点については、国庫補助事業として市内遺跡の緊急発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護に万全を期している。

飯田市教育委員会（以下「市教委」）では平成30年度から令和2年度の間、計12件の緊急発掘調査を実施した。これらについて、主に令和3年度中に整理作業を実施し、事業報告として本書を刊行した。各調査の概要は下表のとおりである。

表3 平成30年度～令和2年度国庫補助緊急発掘調査一覧

調査年度	調査年月日	遺跡名	調査要因	調査位置	調査担当者
平成30	H30.6.28	新地遺跡	個人住宅建設	MC04 04-32	坂井勇雄・佐々木佑里香
平成30	H30.10.15	別府中島遺跡	浸透樹	LC75 21-43	春日宇光
平成30	H30.12.3	古城城跡・飯沼南原遺跡	宅地造成	LC75 13、14	羽生俊郎・春日宇光
平成31（令和元）	R1.5.8	今鈔遺跡	個人住宅建設	MC04 22-48、23-41	春日宇光・佐々木佑里香
平成31（令和元）	R1.7.10	清水上遺跡	個人住宅建設	LC95 06-12	春日宇光
平成31（令和元）	R2.3.9～13	花立遺跡・流田遺跡・藤田遺跡	宅地造成・道路新設	LC75 08-17、18 LC75 07-16、24、32	春日宇光
令和2	R2.6.15～17	妙前遺跡・妙前大塚古墳	個人住宅建設	LC85 07-29	澁谷恵美子・春日宇光・佐々木佑里香
令和2	R2.8.4	観音原遺跡	牛舎建設	LC85 18-8、16	春日宇光・佐々木佑里香
令和2	R2.8.31	切石遺跡	宅地造成	LC74 02-23	春日宇光・佐々木佑里香
令和2	R2.10.12	内御堂東遺跡	道路新設	LC95 07-23	春日宇光
令和2	R3.2.9	内山遺跡・久保尻遺跡	店舗建設	LC94 09-38	春日宇光
令和2	R3.3.10	恒川遺跡群（第109次）	倉庫建設	LC75 08-05	坂井勇雄

※調査位置表記は飯田市新埋蔵文化財基準メッシュ図区画方法（飯田市教育委員会2009）に基づく。

2 調査の体制

当市教委における調査体制、事務局等については以下のとおりである。

(1) 調査

調査主体者	教育長 代田昭久
調査担当者	坂井勇雄 澁谷恵美子 羽生俊郎 春日宇光 佐々木佑里香
調査員	下平博行 福井優希 山下誠一
作業員	伊東裕子 今井和博 今村文一 木下由紀子 関島修 関島真由美 竹本常子 田原香 久田誠 樋本宣子 福澤育子 中村地香子 松本恭子 三木美保 宮内真理子 森藤美知子 森山律子 中田恵 横前正富 吉川悦子

第2章 事業の概要

(2) 事務局（市教委）

教育次長 三浦伸一（H30） 今村和夫（H31～R2）
参与（教育次長事務取扱） 松下徹（R3～）
生涯学習・スポーツ課文化財担当課長（～R2）・文化財保護活用課長（R3～） 馬場保之
文化財保護活用課長補佐兼文化財保護担当主幹 宮澤貴子（R2～）
文化財担当課長補佐兼文化財保護係長（～R2）
文化財保護活用課長補佐兼文化財保護係長（R3～） 下平博行
文化財保護担当専門主査 吉川金利（R3～）
文化財保護係 澁谷恵美子（R2～） 羽生俊郎（H30～R1） 春日宇光
佐々木佑里香（H30～R2） 村山博則（H30～R2）
福井優希（H30・R1） 山下誠一（H30・R1）

※氏名後の（ ）内数字は、平成(H)30～令和(R)3年度のうちの異動のあった者の在籍年度を記している。なお、平成31年度は令和元年度としている。

(3) 指導・協力

長野県教育委員会 文化財・生涯学習課

3 調査の方法

調査は重機を用いて表土掘削を行い、遺構検出面に達してからは必要に応じて人力による掘削により精査し、委託業者による測量を実施して調査区範囲と遺構分布状況を記録した。土層は調査区の壁面の一部で観察した。記録写真は各調査担当者がデジタルカメラで撮影した。

市教委が実施する発掘調査等にあたり、調査区の区画方法については、世界測地系を用いる飯田市新埋蔵文化財メッシュ図による区画方法（市教委 2009）に準拠することとしているが、平成30年度から令和2年度までの市内緊急発掘調査では、当該方式に基づく区画方法を採用した本調査にはいずれも至らなかった。したがって、本報告中の調査区平面図については世界測地系による公共座標のみを表示している。

整理作業は飯田市考古資料館（飯田市上川路1004-1）において、平成30年度から順次進め、令和3年度まで実施した。整理作業においては、作業員による図面等記録の基礎的な整理を行ったうえで、Adobe社製ソフトウェア（Illustrator・InDesign）を使用し、清書および報告書編集作業を実施した。出土遺物は手作業にて洗浄・乾燥・注記をしたうえで実測し、上記ソフトウェアを使用してトレースし、図版を作成した。一部の遺物については拓本を採った。遺物全点を観察し、器種や時期等を判別するうえで有意な特徴を残すものを選択し、本報告書に掲載した。

調査略号は、遺物が出土した調査のみ以下のとおり設定した。出土遺物は微細のため注記自体が不可能なものを除き、当該表記方法に基づき注記した。

平成30年度 別府中島遺跡・・・B N J 2051-1
令和2年度 妙前遺跡・妙前大塚古墳・・・M Y Z 6245-7 K 3
令和2年度 内山遺跡・久保尻遺跡・・・K K J 957-3

出土遺物は長野県から譲渡を受け、飯田市教育委員会が一括して保管している。

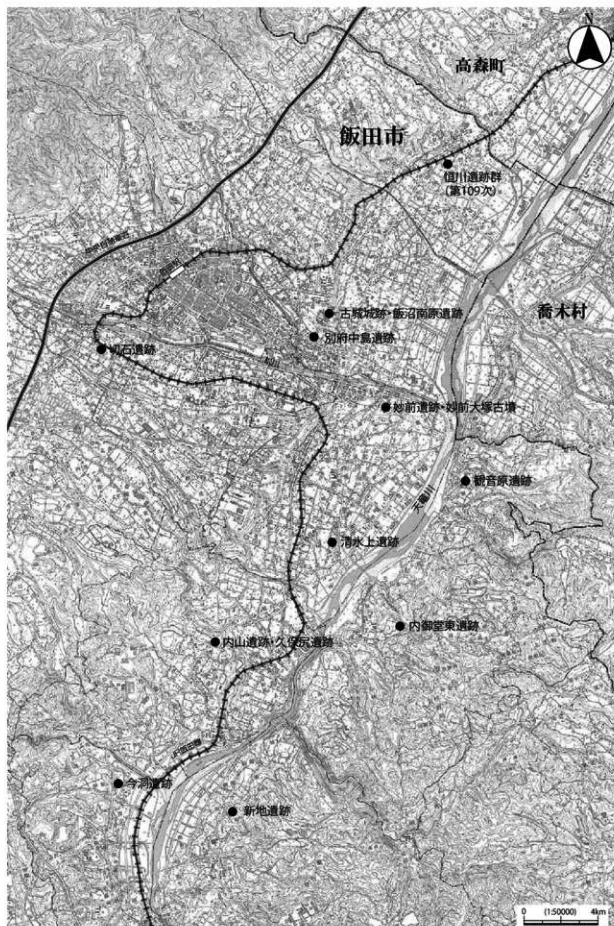


図1 平成30年度～令和2年度市内遺跡緊急発掘調査対象地

第3章 調査の結果

1 新地遺跡

調査地	飯田市龍江 2271-1	担当者	坂井勇雄・佐々木佑里香
調査原因	個人住宅建設	遺構	なし
調査面積	3.38㎡	遺物	なし
調査期間	平成30年6月28日		

遺跡の概要

当遺跡は飯田市南西部の龍江地区に所在する散布地で、天竜川左岸の起伏に富む丘陵地帯の麓に形成された狭小な平坦面に広がる。縄文時代の遺跡として登録されているが、これまでに本格的な調査の履歴はなく、実態は不明であった。

調査の経緯と経過

当遺跡のほぼ中央付近で個人住宅建設の計画が判明したため、試掘調査を実施し、埋蔵文化財の分布状況を確認することとした。調査においては、建物予定地に1本のトレンチを設定し、重機により表土等の掘削を実施し、遺構等の有無を確認した。調査区測量は(株)小林コンサルタントに委託した。同日中に調査区を埋め戻し、現地作業を終了した。

調査結果

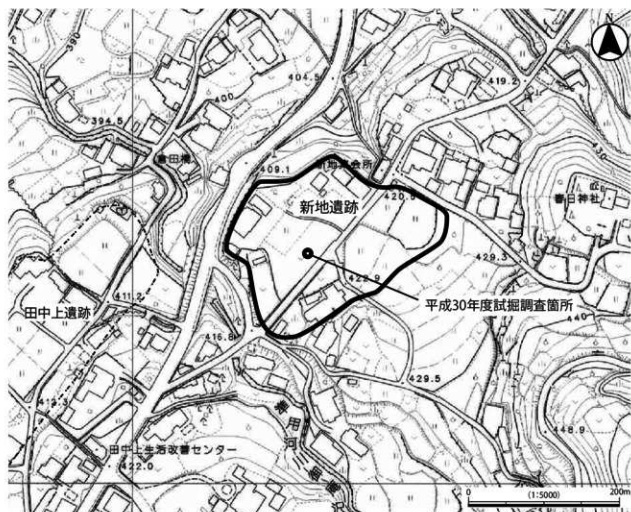
層序：表土(耕土)15cm、造成土35cm、旧耕作土10cm、黄色灰色砂質土15cm、暗褐色粘質土を確認した。下層に至るほど水分を多く含んでおり、湿地的な堆積環境とみられる。なお、調査地は過去に水田、果樹園として利用され、調査前は畑であった。

調査後の経過・所見

試掘調査の結果、遺構・遺物は確認されず、本調査に至らなかった。調査後に改めて分布調査時の遺物を精査したが、近世以降の陶磁器が若干採集されているにすぎず、包蔵地の見直しを行うべきと考えられた。以上の調査結果に基づき、平成31年2月に飯田市埋蔵文化財包蔵地地図の改訂を実施した際に、当遺跡を削除した。

2 別府中島遺跡

調査地	飯田市上郷別府 2051-1	担当者	春日宇光
調査原因	農業施設に伴う浸透樹設置	遺構	なし
調査面積	16.0㎡	遺物	縄文土器・石器
調査期間	平成30年10月15日		



x=60352
y=60892



図2 新地遺跡調査地位置および調査区

遺跡の概要

本遺跡は飯田市街地の東方約2kmの上郷地区別府一帯に所在する。松川へ合流する河川・野底川の左岸に形成された微高地に沿って南北に広がる集落跡で、遺跡の範囲内にはトドメキ古墳群、中島古墳群等の古墳が計15基分布している。今次調査地に隣接する箇所では、昭和61年の市道敷設に伴う発掘調査で縄文時代中期～後期の竪穴建物、土坑等が確認された。平成10年度と平成25年度には2回にわたり福祉施設等の建設のための発掘調査が実施され、縄文時代前期末～弥生時代後期の遺構が検出されており、野底川左岸の主要な集落遺跡のひとつとして数えられる。

調査の経緯と経過

当該地で個人事業による農業用施設の浸透柵設置が計画された。当該地は昭和61年に発掘調査が行われた市道に接する畑地であり、掘削が及ぶ範囲内に埋蔵文化財の存在が予想されたため、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。重機による表土等の掘削を行い、調査区等の測量を(株)小林コンサルタントに委託した。記録後に埋め戻し、同日中に現地作業を終了した。

調査結果

層序：現地表面から表土(耕土)50cmを経て黄褐色砂土となる。黄褐色砂土上面を遺構検出面とした。表土との間に漸移層はなく、削平が及んでいる。

遺構：耕作による攪乱のみが認められ、破壊を受けているとみられる。

遺物：表土掘削中に縄文土器片(図3-1~6)、打製石斧(図3-7、8)が出土した。1~6は縄文中期後葉に位置付けられる土器片である。1は口縁部から頸部にかけての破片で、緩やかに外反する。刺突による施文がされる。2は口縁部で、端部の内面を肥厚させ、平滑に整えていることから曾利式系土器と評価できる。3も口縁の端部で、沈線が施される。4~6はそれぞれ頸部もしくは胴部の破片で、縄文、渦巻文、沈線により施文される。7は硬砂岩製の石斧で、刃部先端から10cm程度で折損する。8はほぼ完形の小型品で、緑色岩製である。

調査後の経過・所見

今次計画地は耕作等の影響により遺構は残存していなかったが、過去の調査履歴等から当該地周辺には縄文時代以降の生活領域が広がるものとみられ、今後も慎重な対応が必要である。

文献

- 上郷町教育委員会 1989 『中島遺跡 矢崎遺跡』上郷町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集
- 飯田市教育委員会 2000 『別府中島遺跡』
- 飯田市教育委員会 2015 『別府中島遺跡』

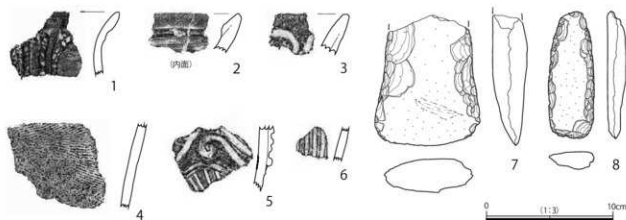


図3 別府中島遺跡出土遺物

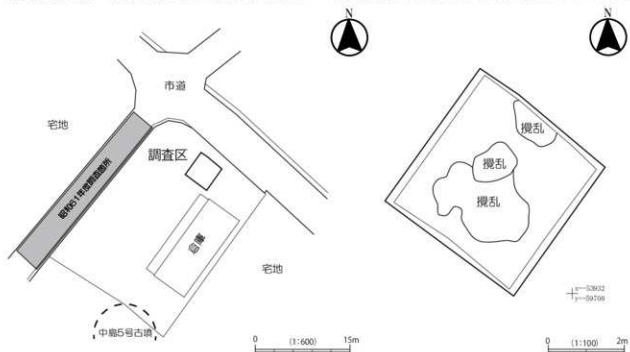
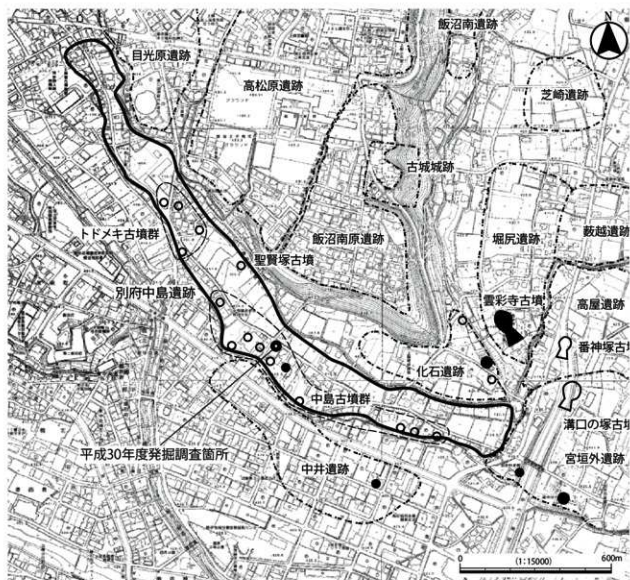


図4 別府中島遺跡調査地位置および調査区

3 古城城跡・飯沼南原遺跡

調査地	飯田市上郷飯沼 3233-1、3233-2	調査期間	平成30年12月3日
調査原因	宅地造成	担当者	羽生俊郎・春日宇光
調査面積	52.0㎡	遺構	堀 1条
調査期間	平成30年12月3日	遺物	なし

遺跡の概要

古城城跡および飯沼南原遺跡は飯田市街地東方約3kmの上郷地区に所在する。天竜川右岸の低位段丘から高低差40mの段丘崖を経てすぐの中段丘の突端部に広がる散布地で、調査事例に乏しく実態は不明である。古城城跡は飯沼南原遺跡の東端の段丘崖に縄張りをもつ山城で、東西約35m南北約50mの平地として残る。北側に幅10m程度の空堀の痕跡がみられ、現況からは堀跡から内側の主郭のみが城域として視認できる。本城跡は諸記録に一切登場せず、城主や築造時期等の詳細は不明である。

調査の経緯と経過

調査地は戦後に教員住宅地として利用されてきたが、民間事業者に譲渡され、宅地造成の計画が判明した。造成を伴う工事であったことから、保存目的の試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて協議を実施することとした。造成の影響を受ける箇所と、敷地内を横断する進入路部分に対し計3本のトレンチを設定した。重機により表土等の掘削後遺構検出作業を行い、遺構・遺物の有無を確認した。調査区等の測量を(株)小林コンサルタントに委託して記録のうえ、重機により調査区を埋め戻し、同日中に現地作業が終了した。

調査結果

層序：当該地は教員住宅を解体撤去して更地になっており、基礎や配管等により大きく攪乱を受けていた。トレンチ2の攪乱の影響が少ない箇所では表土40cm、暗褐色シルト質壤土層40cm、黄褐色シルト質壤土層(ローム質)の順で堆積する。トレンチ1ではローム質の地山はみられず、表土70cmの下に明黄褐色砂土が露出した。トレンチ3では表土40cmで黄褐色シルト質壤土層(ローム質)となる。それぞれ黄褐色シルト質壤土層または明黄褐色砂土層の上面で遺構を検出した。

遺構：トレンチ1・3から堀の主郭側の掘肩を検出した。地山とみられる砂土層を掘り込む。外側の掘肩は、トレンチを伸ばせず把握できなかった。

試掘調査の結果、堀1条が検出され、城の範囲の推定につながる成果が得られた。この堀は調査前の地形に痕跡が視認できた北側の堀、あるいはその一部とみられ、検出地点から南西方向へ続き、現在市道が通る自然の谷地形に接続して古城の主郭を区画していたと考えられる。一方、郭の内側はかつて教員住宅地であったこともあり、その際の造成や建物等によって大きく攪乱・削平を受けていたため、遺構は確認できなかった。検出した堀1についても、盛土により大半は保存されると判断した。

試掘調査の後、本調査は不要として着工したが、西側の道路から敷地内へ入るための進入路の両側に側溝を設置する工事に際し、立会を実施することとした。当該箇所で作作物設置前に状況を確認したところ、試掘で把握した堀1条に加え、新たに2条の堀の断面を確認した(図7)。試掘・

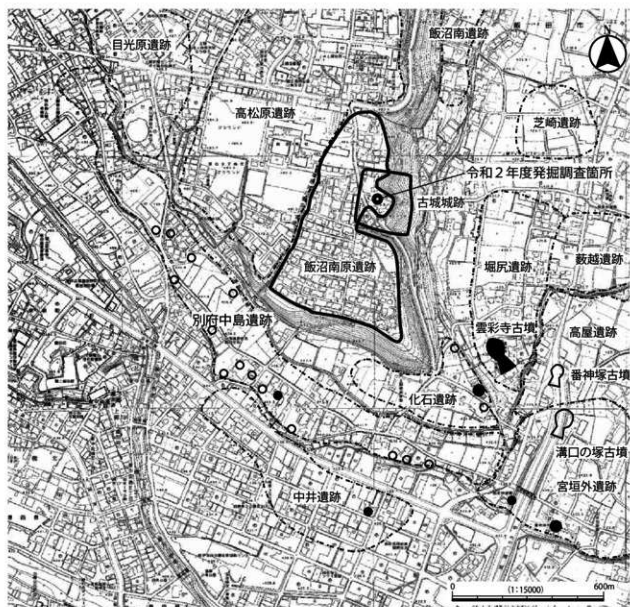


図5 古城城跡・飯沼南原遺跡調査地位置

立会て把握した堀の特徴をまとめると、次のとおりである。

堀1：立会調査時に断面で検出した。検出位置は市道に接する主郭西側である。方向は不明。遺構検出面で幅3.5m、深さ1.4mを測り、断面形状は薬研状を呈する。埋土はローム質の黒色土の単層で、レンズ状の堆積はみられない。

堀2：試掘調査のトレンチ1・3、および立会調査時に断面で検出した。堀1から3mほど主郭内側に位置する。北側で屈曲し、段丘端部に残る堀の痕跡に接続すると考えられる。幅は8.0m、深さは底部まで掘削が及ばず不明だが、薬研状と仮定した場合、少なくとも3m以上の深さがある堀として復元できる。埋土は黒色土2層として記録したが、ほぼ単層といえる状況であり、一括して埋め立てられた蓋然性が高い。最も大型であり、当城跡の主たる堀であろう。

堀3：立会調査時に断面で検出した。上部は表土ごと削平されている。堀2より1mほどの位置に掘り込まれる。断面形状は薬研状で、底部が丸くなる。方向は不明。残存幅は3.5m、深さは1.3mを測る。埋土は3層に分かれる。一部に白色砂との互層がみられ、自然に埋没したと考えられる。

以上から、古城城跡は大小数重の堀を巡らせていたと判明した。埋土の状況から、それぞれ時期や埋没過程が異なるとみられる。埋没の時期や原因は不明だが、近代以降の宅地開発における埋め

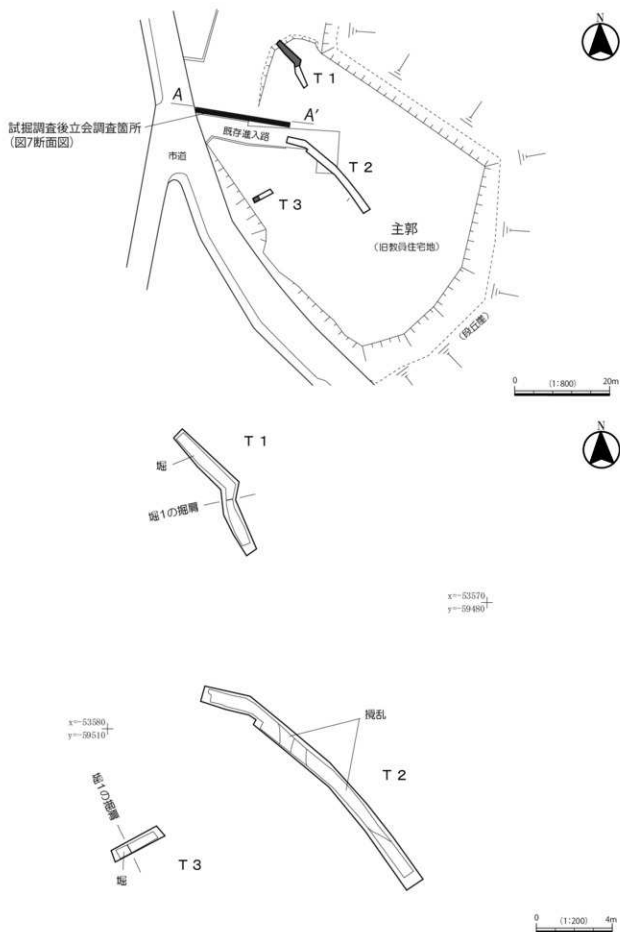


図6 古城城跡・飯沼南原遺跡調査区

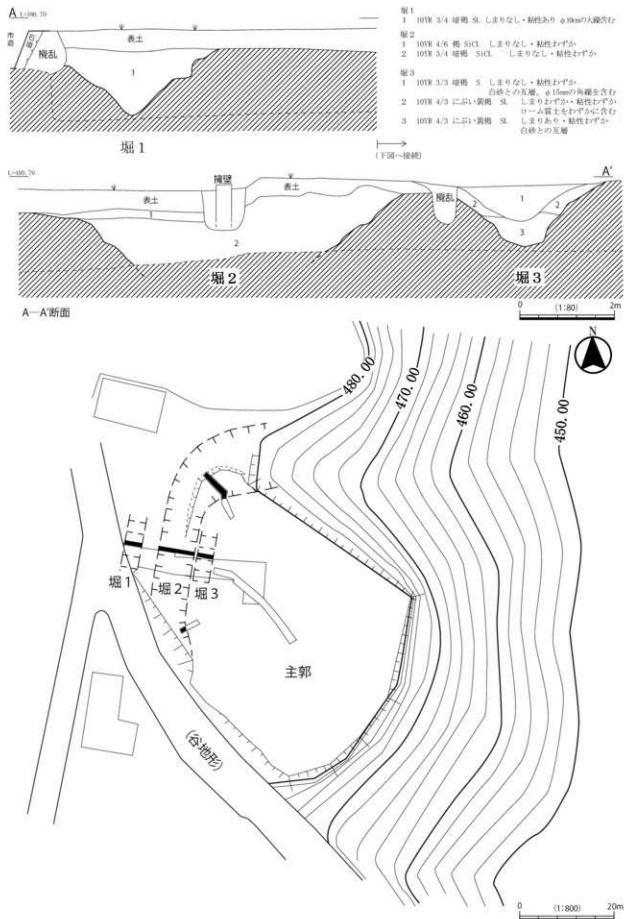


図7 古城城跡・飯沼南原遺跡立会時検出堀断面図・古城城域推定復元図

第3章 調査の結果

立て以前に、城域の拡張もしくは縮小があったかもしれない。

調査後の経過・所見

開発後も地下に遺構が保存されるため、本調査には至らなかった。調査終了後は主郭の全域が宅地化され、城としての面影を残すものは主郭北側の堀の痕跡のみとなった。今次調査でも出土遺物はなく、時期を特定する手がかりはないが、宮坂武男氏は飯沼氏あるいは黒田氏に関わる「隠居城」としての性格を推定している（宮坂 2013）。なお、本城跡から北方 700 m ほどの地点には、かつて広大な城域を誇った飯沼城があり、中世に一角を統治した飯沼氏の居城とする説がある（上郷史刊行会 1978）。本城についても、飯沼城と同様に段丘端部を利用した伊那谷特有の山城のひとつに連なるものであり、複数の堀を記録できたことは大きな成果といえる。

文献

上郷町史刊行会 1978 『上郷史』

宮坂 武男 2013 『信濃の山城と館 6 諏訪・下伊那編』 戎光祥出版

4 今洞遺跡

調査地	飯田市川路 1906-3	担当者	春日宇光・佐々木佑里香
調査原因	個人住宅建設	遺構	ピット 6基
調査面積	13.42㎡	遺物	なし
調査期間	令和元年5月8日		

遺跡の概要

今洞遺跡は飯田市南部の川路地区に所在する。川路地区は天竜右岸の広大な氾濫原を特徴とする地区で、今洞遺跡は一段上の段丘平坦面に広がる。また、遺跡内には4基からなる今洞古墳群が分布する。当遺跡は北側段丘端部付近で昭和38年に下伊那教育会による学術調査が行われ、縄文時代前期の資料が得られた。しかし、それ以降は調査が及んでおらず、特に遺跡中央部付近の埋蔵文化財の分布状況は不明であった。

調査の経過

当遺跡内で個人住宅の建設計画が判明した。この工事は地下への影響が大きいと判断されたため、事前に試掘調査を実施することとした。

住宅の建設予定地に幅約1.5mのトレンチを設定し、重機により表土等の掘削を行い、遺構を検出した。調査区等の測量を（株）小林コンサルタントに委託して記録のうえ、重機により調査区を埋め戻し、同日中に現地作業を終了した。

調査結果

層序：調査地はかつて畑地であった。現地表面から表土（耕作土）40cm、暗褐色シルト15～20cmを経て明黄褐色シルトの上部が遺構検出面となる。暗褐色シルトは明黄褐色シルトの漸移層である。

遺構：ピットを6基検出した。規模は不揃いで、直径15～40cmを測る。いずれも不規則に分布し、建物跡として復元できるものではなく、検出にとどめ掘り下げはしていない。時期等は不明だが、

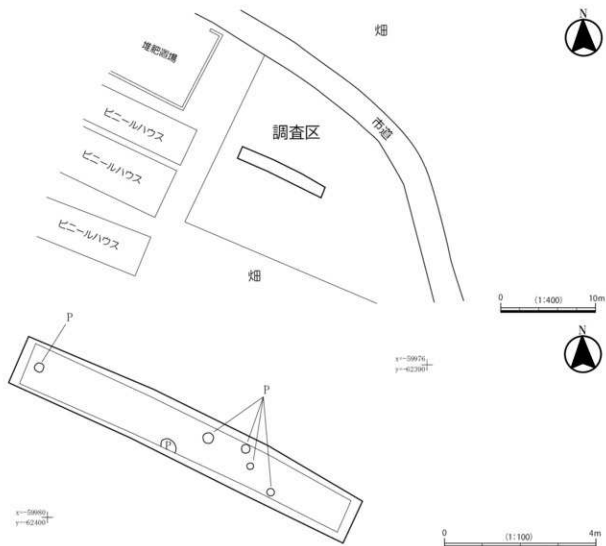


図8 今洞遺跡調査位置および調査区

第3章 調査の結果

分布状況や埋土等の特徴から中世の可能性が高い。

調査後の経過・所見

調査の結果、性格不明のピット数基を検出したにとどまり、本調査には至らなかった。当遺跡では下伊那教育委員会による発掘以後、本格的な調査は実施されていなかったが、今次調査により、遺跡中央部にも遺構が分布することが判明した。

文献

下伊那史編纂会 1991 『下伊那史』第1巻

5 清水上遺跡

調査地	飯田市松尾清水 4546-4	担当者	春日宇光
調査原因	個人住宅建設	遺構	方形周溝墓 1基
調査面積	10.5㎡	遺物	なし
調査期間	令和元年7月10日		

遺跡の概要

清水上遺跡は天竜川右岸の松尾地区に所在する。天竜川の氾濫原を一段登った低位段丘上に広がる遺跡である。遺跡南部では、平成26年の発掘調査において古墳時代の堅穴建物等が検出され、集落としての性格が判明した。

調査の経緯と経過

当遺跡内で個人住宅の建設計画が判明した。当該計画では地盤改良による掘削範囲が大きいことから、埋蔵文化財への影響の有無を確認するため試掘調査を実施した。住宅の建設予定地にトレンチを設定し、重機により表土等の掘削を行い、遺構を検出した。調査区等の測量を（有）キリュウに委託して記録のうえ、調査区を埋め戻し、同日中に現地作業を終了した。

調査結果

層序：現地表面から表土30cm、暗褐色シルト質壤土層70～80cm、その下層の明黄褐色シルト質壤土層の上部を遺構検出面とした。

遺構：幅約50cm～80cmの溝1条を検出した。東側と西側でそれぞれ内湾し、調査区外へ続く。平面形および規模から、方形周溝墓とみられる。

調査後の経過・所見

調査の結果、溝1条を検出したが、地盤改良の深度が遺構検出面に及ばなかったため、本調査は実施せず、地下に保存することとした。周溝墓の時期は不明であるが、弥生時代もしくは古墳時代の可能性がある。当遺跡は南側に弥生～平安時代の集落が分布するが、今次調査により、中央付近に墓域が広がる可能性が浮上した。今後も慎重に周辺の調査を実施し、墓域や集落の範囲の特定を進める必要がある。

文献

飯田市教育委員会 2016 『清水上遺跡』

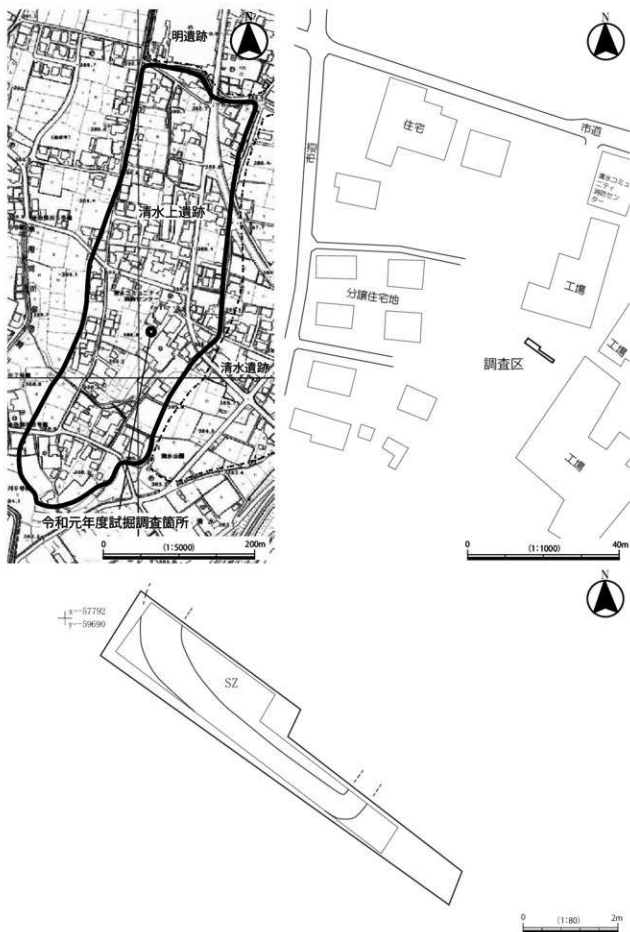


図9 清水上遺跡調査位置および調査区

6 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡

調査地	飯田市座光寺 3824-3 他	担当者	春日宇光
調査原因	宅地造成・道路新設	遺構	なし
調査面積	251.33㎡	遺物	なし
調査期間	令和2年3月9日～13日		

遺跡の概要

花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡は飯田市域最北端の座光寺地区に位置する。史跡恒川官衙遺跡（恒川遺跡群）の南側にあり、当地区と上郷地区との境界をなす土曾川の左岸からやや北側に入った先の水田・果樹耕作地帯である。それぞれ散布地として飯田市埋蔵文化財包蔵地分布地図に登録されている。花立遺跡については大正11年の鉄道敷設工事中に土師器が一括出土したことが『下伊那史』第3巻に記録されているが、発掘や試掘等調査の履歴はない。流田遺跡、篠田遺跡についても同様に、個人住宅等ともなう小規模な立会調査を除き、本格的な調査は実施されていない。

調査の経緯と経過

当市のリニア推進部により、各遺跡を横断する範囲でリニア中央新幹線長野県駅に係る「唐沢・宮の前代替地」の宅地造成及び付帯する市道の新設が計画された。工事は大幅な土の入れ替えを伴うものであったことから、埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性が認められた。しかし、調査歴に乏しいことから試掘により遺構・遺物の有無を確認する必要が生じた。このため、市教委が工事前手前試掘調査を実施し、その結果に基づき改めて保護について協議することとなった。

建設予定地に計11本のトレンチを設定し、令和2年3月9日から重機により表土等の掘削を行った。調査区等の測量を（株）小林コンサルタントに委託して記録し、終了した箇所から埋め戻しを進め、同13日中に現地作業を終了した。

調査結果

花立遺跡に2か所、流田遺跡に8か所、篠田遺跡に1か所のトレンチを設定した。

(1) 花立遺跡（トレンチ1・2）調査地番：座光寺 3820-1、3820-2

トレンチ1層序：水田耕土40cm、水田床土20cm、青灰色グライ化粘質土層50cm、以下青灰色グライ化砂礫層。著しく湧水。

トレンチ2層序：水田耕土30cm、明褐色粘質土と砂土の互層（鉄分変色をとともう）70cm、暗褐色粘質土層（鉄分変色をとともう）70cm、以下砂土層（直径0.5cm前後の礫を含む）。湧水あり。

(2) 流田遺跡（トレンチ1～8）調査地番：座光寺 3768-5、3770-3、3810-6、3823、3824-3、3826-4、3830、3339-4

トレンチ1層序：水田耕土30cm、暗褐色粘質土層20cm、明黄褐色シルト層。湧水あり。

トレンチ2層序：畑耕土20、明灰色砂礫層70cm、黒色シルト層20cm、明灰褐色シルト層30cm、以下礫層（直径2～10cmの円礫を主体とする）。著しく湧水。

トレンチ3層序：畑耕土50cm、明灰色シルト層60cm、以下礫層（直径10～20cmの円礫を主体とする）。耕作による攪乱多い。湧水あり。

トレンチ4層序：水田耕土30cm、明灰褐色シルト層10cm、黒色シルト層20cm、以下礫層（直



図 10 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査位置

径 2～5 cm の円礫を主体とする)。湧水あり。

トレンチ 5 層序：水田耕土 30cm、灰褐色砂土層（鉄分変色をとまなう）80cm、以下礫層（直径 2～10cm の円礫を主体とする）。湧水あり。

トレンチ 6 層序：水田耕土 60cm、以下 140cm まで明灰色シルト層。湧水あり。

トレンチ 7 層序：水田耕土 20cm、明褐色粘質土層と砂層の互層 180cm、以下砂土層（直径 0.5cm 前後の礫を含む）。湧水あり。

トレンチ 8 層序：畑耕土 30cm、明灰色砂礫層 40cm（鉄分変色をとまなう）、明灰褐色粘質土層 40cm、礫層（直径 10～20cm の円礫を主体とする）。

(3) 篠田遺跡（トレンチ 1）調査地番：座光寺 3762-5

トレンチ 1 層序：表土 20cm、暗褐色砂土層 50cm、明灰色シルト層（鉄分変色と青灰色のグライ化をとまなう）60cm、以下砂土層。著しく湧水。

調査後の経過・所見

調査の結果、遺構・遺物は何ら確認されなかった。土層の堆積状況は基本的に鉄分の変色やグライ化したシルト層と砂層、礫層の互層であったことから湿地であり、かつ付近の河川が氾濫した際に洪水の影響を受けやすいとみられ、安定的な地盤は存在しない。また、ほとんどの調査区で湧水し、全域が湿地帯であることが判明した。この結果から、今次開発に際して本調査は不要とした。

その後、長野県教育委員会と協議し、令和 2 年度に花立・流田・篠田の各遺跡の範囲を改訂した。対象地は大幅な土壌の入れ替えを実施し、宅地・道路として整備が完了している。

文献

下伊那史編纂会 1955 『下伊那史』第 3 卷

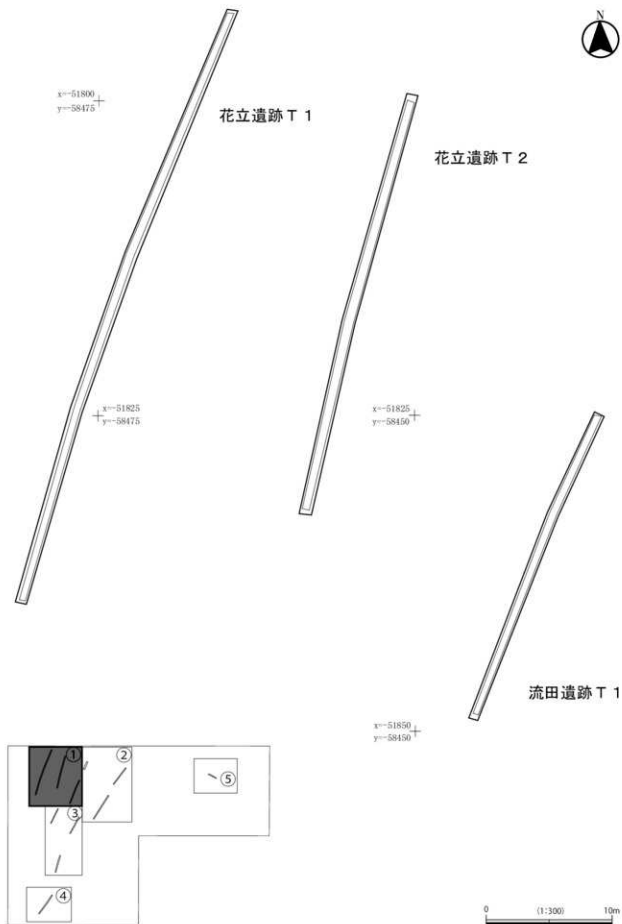


図 11 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区 (1)


 $x=51800$
 $y=58400$


流田遺跡 T 2

 $x=51825$
 $y=58425$
 $x=51825$
 $y=58400$


流田遺跡 T 3

 $x=51850$
 $y=58425$


流田遺跡 T 4

0 (1:300) 10m

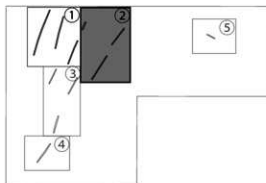


図 12 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区 (2)

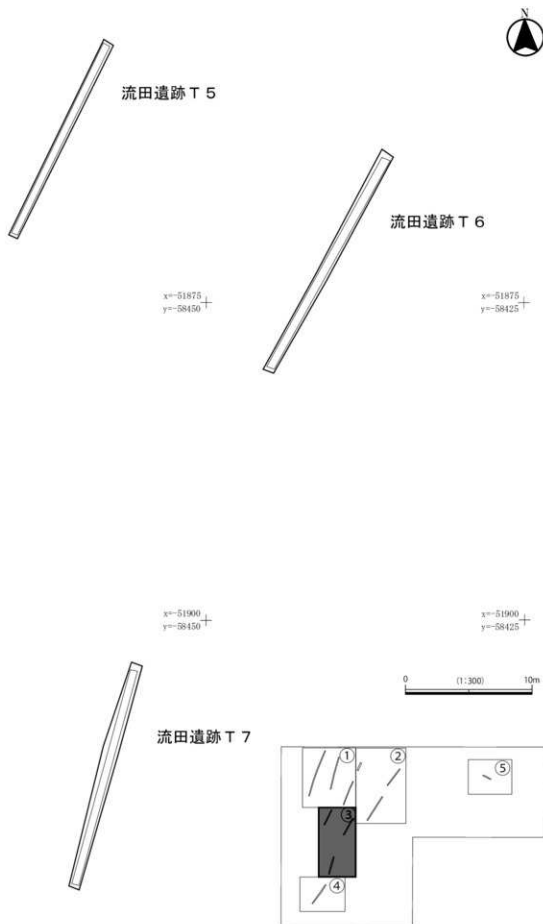


図 13 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区 (3)

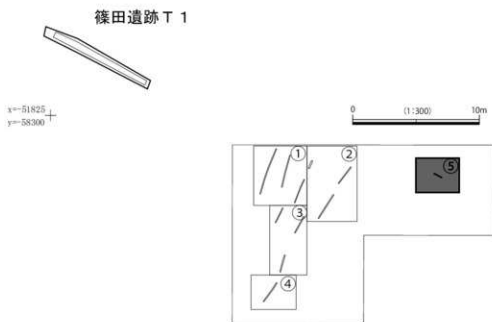
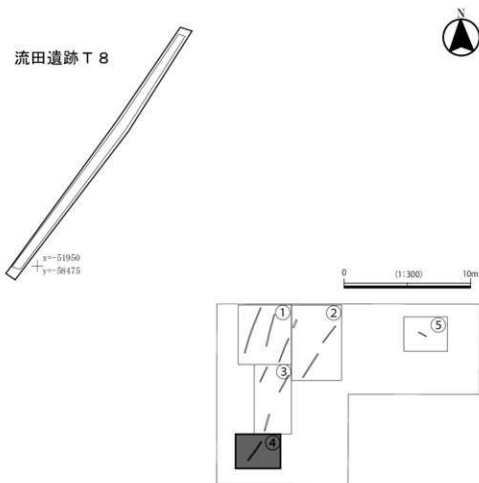


図 14 花立遺跡・流田遺跡・篠田遺跡調査区 (4)

7 妙前遺跡・妙前大塚古墳

調査地	飯田市松尾新井 6245-7	担当者	澁谷恵美子・春日日光・
調査原因	個人住宅建設		佐々木佑里香
調査面積	22.96㎡	遺構	妙前大塚古墳周溝、葺石
調査期間	令和2年6月15日～17日	遺物	埴輪

遺跡の概要

妙前遺跡は飯田市街地南東約2kmの松尾地区にあり、天竜川とその支流である松川の合流地点に近い低位段丘上に広がる遺跡である。当遺跡の北側には、14基からなる妙前古墳群が列状に分布する。そのなかで最大の規模とされる妙前大塚古墳は、昭和46年の学術発掘調査で碟状の主体部から鉄地金銅装肩庇付冑、鉄剣・鉄刀、鉄鎌等が出土した。肩庇付冑は長野県宝に指定されている。

調査の経緯と経過

当遺跡内で個人住宅の建設計画が判明した。当地点は妙前大塚古墳と妙前4号古墳の間に位置するため、地権者の了解を得て古墳の範囲内容を確認するための発掘調査を実施することとした。令和2年6月15日より重機による表土等の掘削を行い、その後は人力による掘削・記録を行った。調査区の測量を(株)小林コンサルタントに委託した。17日に調査区を埋め戻し、作業を終了した。

調査結果

層序：現地表面から造成土50cm、旧水田耕作土20～30cm、暗褐色砂質壤土10cm、その下層にしまりの弱い黄褐色砂土が30cm程度堆積しており、この上面が遺構検出面である。

遺構：調査区の北西隅で妙前大塚古墳の墳裾を検出した。直径15～30cm程度の石を組み置いた箇所が幅70cm程度残存しており、それより墳丘中心側は後世の造作で削平されている。墳裾から外側に幅約6mの周溝が巡る。墳裾側および周溝外側から周溝底部に向けて緩やかに掘り込まれる。底部は予想を超える深さであったため、崩落防止のため掘削を途中で断念したが、遺構検出面から1.2m以上の深さまで掘り込まれていることを確認した。

遺物：墳裾付近や周溝内から埴輪片が出土した(図18)。いずれも微細で、全体が復元しうるものはない。うち3点を図示した。外面にヨコナデ調整を施すもの(図18-1)、外面タテナデ調整のもの(図18-2)がそれぞれ含まれる。図18-3は底部で、外面は不齊なナデ、内面はユビオサエにより整えられる。いずれも黒斑は認められないが、焼成の良・不良、色調にばらつきがある。胎土には直径5mm以下の白色石粒を多く含む。

調査の結果、妙前大塚古墳の墳裾と周溝を把握し、当古墳の範囲を推定する根拠が得られた。墳裾は現在の墳丘から2～3m外側に位置し、現況よりも古墳の範囲が広いことが改めて確認された。今次調査と過去の調査(昭和46年度、平成11年度)の結果をあわせると、当古墳の直径は32～33m程度と推定される(図17)。これは市内の円墳としては最大級の規模であるが、平成11年度の調査では南側に周溝の途切れる箇所があり、「土橋状のようなもの」としている。したがって、当古墳については造り出しを有する円墳、あるいは軌立貝形古墳の可能性も考えられる。周溝は、東側・南側では幅6m前後、西側では幅15mほどとなり、一定しない。正確な範囲を把握するためには、西～北側の状況を把握する必要がある。

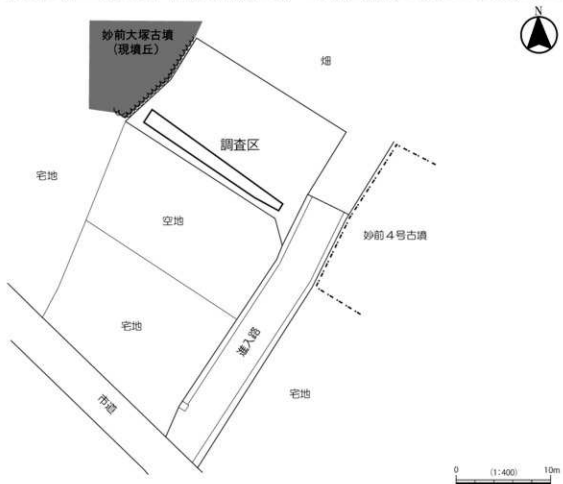
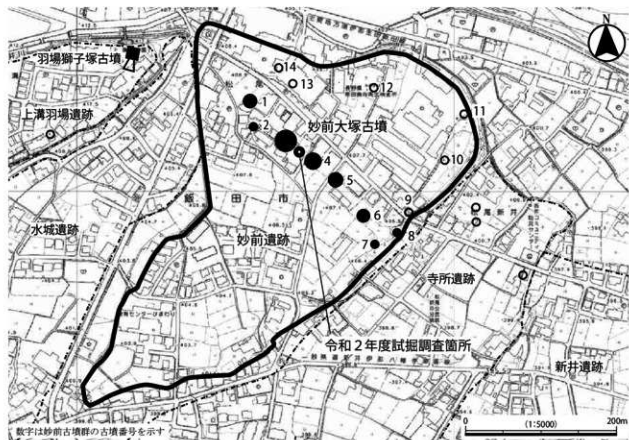


図 15 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査位置および調査区

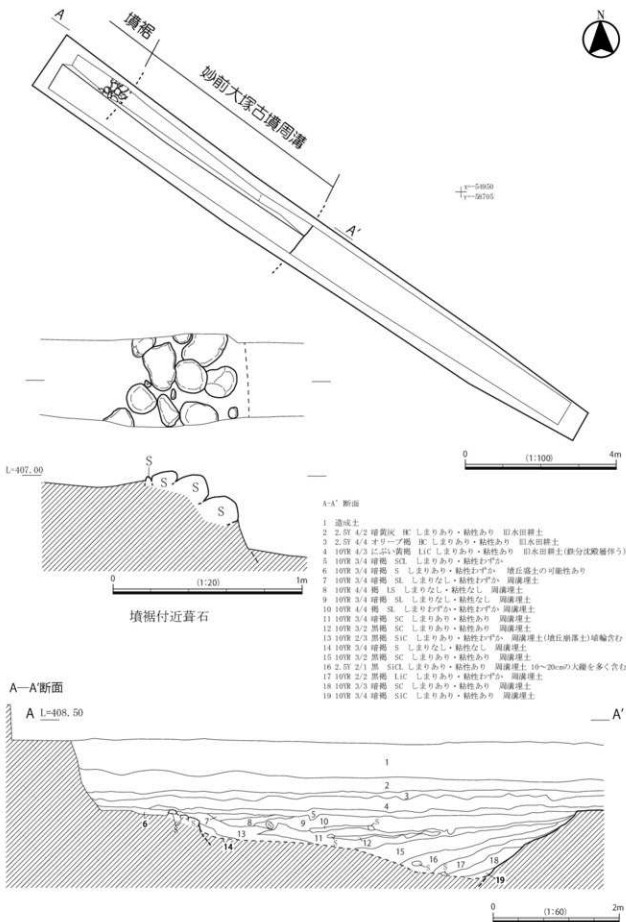


図 16 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査区平面図・断面図

調査後の経過・所見

今回計画された建物による掘削は遺構に影響を与えないことから、追加の保護措置は行わなかった。今次調査では妙前大塚古墳の範囲を推定するうえで意義のある結果が得られた。妙前古墳群の主墳であり、帆立貝形古墳の可能性があることに加え、周辺の古墳や寺所遺跡などの集落遺跡との関係も課題である。

文献

飯田市教育委員会 1972『妙前大塚（3号）古墳』

飯田市教育委員会 2000『恒川遺跡群他市内遺跡 平成11年度 市内緊急調査概要報告書』

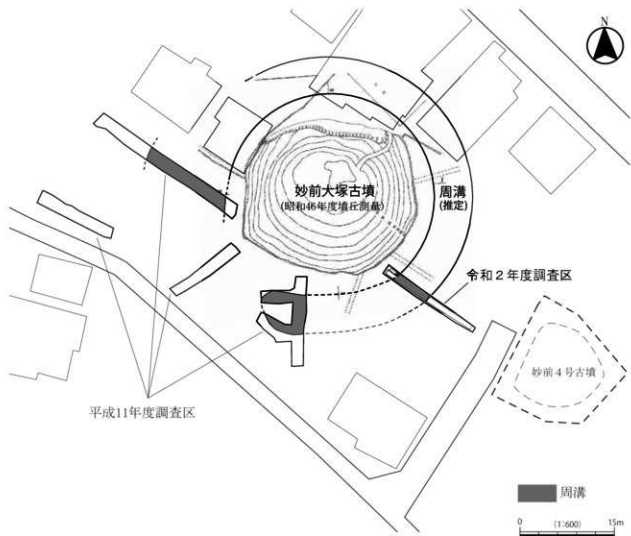


図17 妙前大塚古墳想定復元図

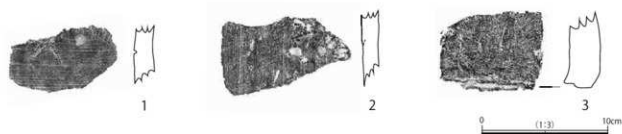


図18 妙前遺跡・妙前大塚古墳調査区出土遺物

8 観音原遺跡

調査地	飯田市下久堅下虎岩 285、286、288	担当者	春日宇光・佐々木佑里香
調査原因	牛舎建設	遺構	ピット 13基
調査面積	37.16㎡	遺物	なし
調査期間	令和2年8月4日		

遺跡の概要

観音原遺跡は飯田市街地東方約4kmの下久堅地区にあり、天竜川左岸の急峻な段丘崖を登った先に広がる平坦面上の遺跡である。散布地となっており、調査履歴はない。遺跡東側の段丘突端部には、中世山城の北原城城跡が所在する。

調査の経緯と経過

当遺跡内で牛舎の建設計画が判明した。当遺跡の埋蔵文化財の分布状況は不明であるため、試掘調査を実施することとした。

計画地にトレンチを設定し、令和2年8月4日より重機を搬入して表土等の掘削を行った。遺構検出後、調査区および遺構の測量を(株)小林コンサルタントに委託した。同日中に調査区を埋め戻し、現地作業を終了した。

調査結果

層序：耕作土45cmの直下に黄褐色粘質シルトが露出し、この上面が遺構検出面である。

遺構：ピット13基を検出した。直径は10～20cm程度であり、位置関係に規則性はない。

調査後の経過・所見

調査の結果、ピットの分布が確認されたが、建物跡として認識できるものではなく、いずれも小規模であったことから、検出のみで調査を終了した。段丘突端部の北原城城跡に関連するとも考えられ、中世に当遺跡が広がる段丘平坦面の利用が進んだ可能性を指摘するにとどめたい。



図19 観音原遺跡位置図

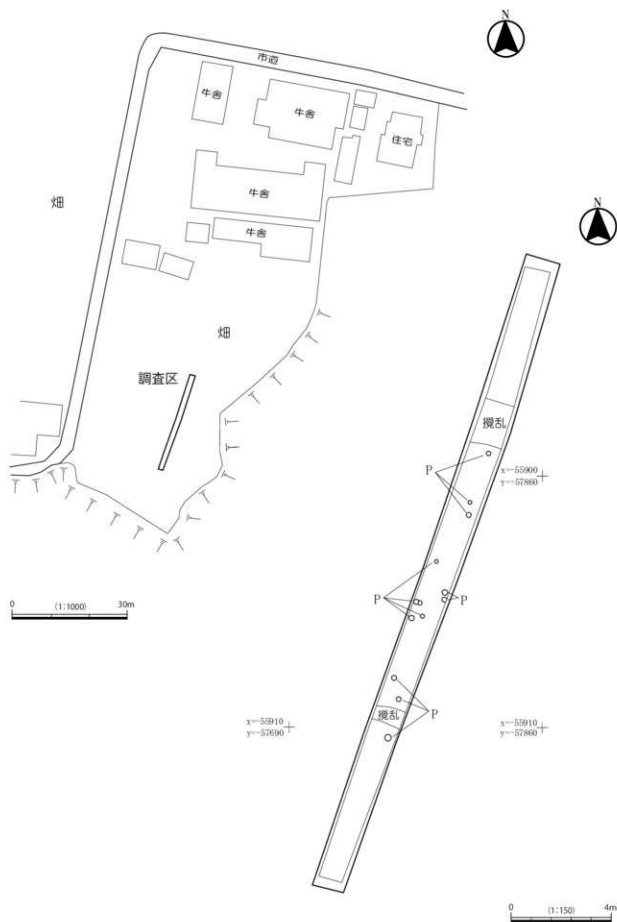


図 20 観音原遺跡調査区

9 切石遺跡

調査地	飯田市鼎切石 4075-16	担当者	春日宇光・佐々木佑里香
調査原因	宅地造成	遺構	ピット 2基
調査面積	29.81㎡	遺物	なし
調査期間	令和2年8月31日		

遺跡の概要

切石遺跡は飯田市街地西方約2kmの鼎地区にあり、天竜川支流の松川上流右岸の段丘平坦面に沿って東西に広がる遺跡である。中央自動車道にともなう発掘調査（旧・天伯B、山岸遺跡）では、弥生～古墳時代の堅穴建物が密に検出され、特に古墳時代中期の集落としては当地域でも屈指の遺跡である。一方、中央道より北側（旧・天伯A遺跡）では古墳時代の遺構は少なくなり、縄文時代中期後葉の集落が広がることが判明している。また、遺跡の東寄りでは、県道拡幅や店舗等にもなう発掘調査により、縄文～古墳時代の遺構が確認されている。

調査の経緯と経過

当遺跡内で宅地造成が計画された。当該地の埋蔵文化財の分布状況は不明であったため、造成地内の位置指定道路予定地に先行して試掘調査を実施することとした。トレンチは2箇所設定した。

令和2年8月31日より重機を搬入して試掘調査を実施し、表土等の掘削を行った。遺構検出後、調査区および遺構の測量を（有）キリュウに委託した。同日中に調査区を埋め戻し、現地作業を終了した。

調査結果

層序：耕作土40cm、黒褐色土層30cm、黄灰色砂礫層と続き、砂礫層上面が遺構検出面である。

遺構：トレンチ2において重複するピット2基を検出した。直径は20cm程度と5cm程度で埋土はいずれも黒褐色土である。トレンチ1は大きく攪乱を受け、遺構は認められなかった。検出にとどめ、掘り下げはしていない。

調査後の経過・所見

検出遺構はピット2基のみであり、時期性格ともに不明である。全体的に以前の耕作や工作物による攪乱を大きく受けていた。このため、今次開発に際して本調査には至らなかったが、南側の県道拡幅に際して発掘履歴があり、周辺には集落が存在するとみられるため、今後も慎重な対応が必要である。

文献

長野県教育委員会	1971	「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―飯田地区一」
鼎町教育委員会	1984	「鼎一色・天伯A遺跡」
飯田市教育委員会	1989	「六反畑遺跡」
飯田市教育委員会	1992	「天伯B遺跡（五輪原）」
飯田市教育委員会	1995	「六反畑遺跡Ⅱ」
飯田市教育委員会	2009	「切石遺跡群」
飯田市教育委員会	2020	「切石遺跡」

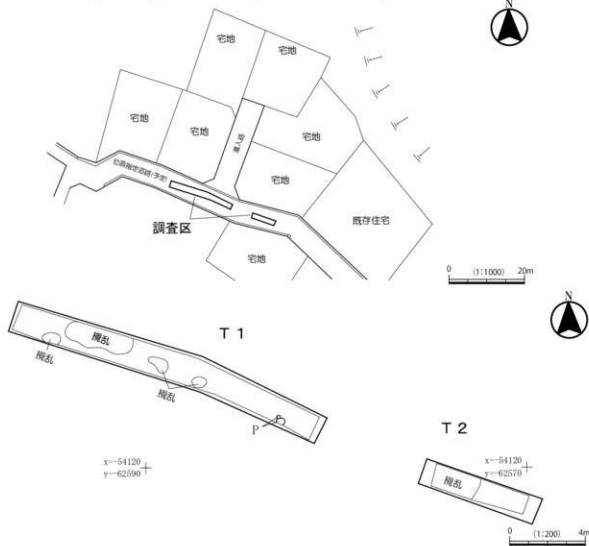


図 21 切石遺跡位置および調査区

10 内御堂東遺跡

調査地	飯田市下久堅知久平 428	担当者	春日宇光
調査原因	道路建設	遺構	なし
調査面積	11.37㎡	遺物	なし
調査期間	令和2年10月12日		

遺跡の概要

内御堂東遺跡は飯田市街地南東約5kmの下久堅地区知久平に位置する。当遺跡は、中世に天竜川東岸域に勢力をもった知久氏の居城である、知久平城城域の東側に隣接する平坦面上に広がる。遺跡西部では、昭和55年度の農業構造改善事業に伴う発掘調査において縄文～奈良・平安時代の遺構のほか、中世の掘立柱建物群が調査された。知久平城に関連する中世の屋敷地として推定される。

調査の経緯と経過

当遺跡内で飯田建設事務所が下久堅バイパスに伴う取り付け道路の新設工事を計画した。工事予定地に係る遺跡東部の埋蔵文化財の分布状況は不明であり、試掘調査により確認することとした。建設敷地内にトレンチ2箇所を設定し、重機により表土等の掘削を行った。調査区等の測量を(株)小林コンサルタントに委託して記録のうえ調査区を埋め戻し、同日中に現地作業を終了した。

調査結果

層序：耕作土50～60cm、暗灰色シルト20cm、明黄灰色シルトの順で堆積し、明黄灰色シルト上面で遺構の有無を確認した。

調査後の経過・所見

今次調査では遺構等は確認されず、工事については本調査を経ずに着工することとなった。遺跡の中心部はかつて行われた発掘調査で「武家屋敷」とされた掘立柱建物群が検出された知久平城隣接地と考えられ、今次調査地まではその領域は広がらないものとみられる。

文献

飯田市教育委員会 1980『内御堂遺跡—中世武家屋敷跡を中心とした—』

11 内山遺跡・久保尻遺跡

調査地	飯田市桐林957-3他	担当者	春日宇光
調査原因	店舗建設	遺構	ピット 1基
調査面積	8.91㎡	遺物	土師器片
調査期間	令和3年2月9日		

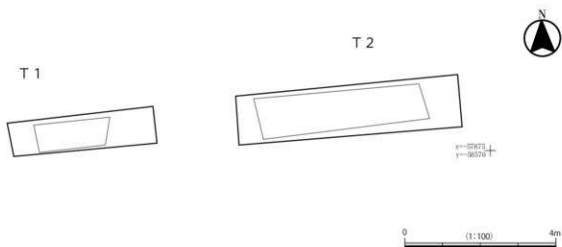
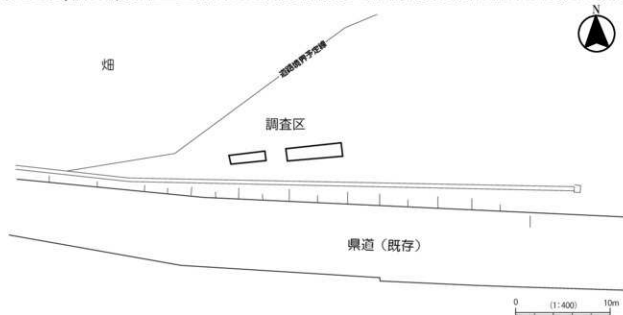


図 22 内御堂東遺跡位置および調査区

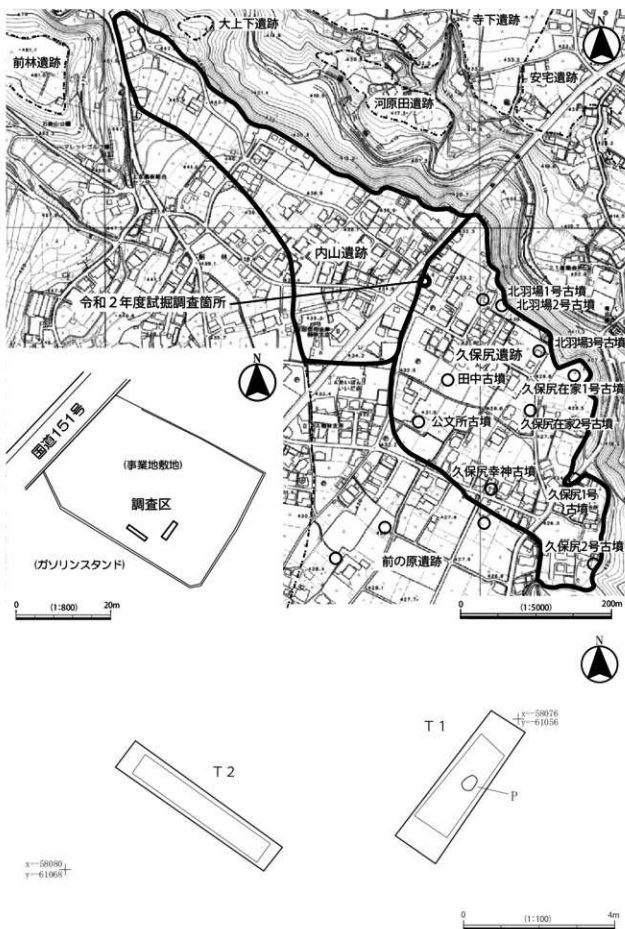


図 23 内山遺跡・久保尻遺跡位置および調査区

遺跡の概要

内山遺跡・久保尻遺跡は飯田市街地南方約5kmの竜丘地区桐林に位置する。内山遺跡と久保尻遺跡は天竜川支流の小河川・新川右岸の平坦面上に立地し、当該地を南北に走る国道151号線付近を境に隣接する。この付近は一大集落地として知られ、国道の西側近辺に位置する内山

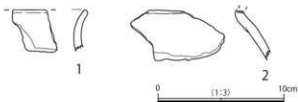


図24 内山遺跡・久保尻遺跡出土遺物

遺跡では国道敷設時および周辺の店舗開発による調査で、古墳時代後期～平安時代の集落と判明している。内山遺跡と国道付近を境として東側に広がる久保尻遺跡は縄文時代中期から中世にかけて遺構が確認されている。最近では農協事務所新築のための発掘調査で、多数の鉄鍬や農具が出土した古墳時代の大型建物1棟のほか、奈良時代の堅穴建物群、土師器焼成坑、中世墓、中世の柱穴群などが記録され、各時代にわたって集落や墓が営まれた複合的な遺跡であることが判明した。

調査の経緯と経過

内山遺跡と久保尻遺跡を横断する敷地内で民間事業者が店舗の建設を計画した。建物の一部が半地下構造となることから、地下の埋蔵文化財への影響が懸念されるものの、当該箇所の遺構の有無は不明であった。そのため、事前に試掘調査を実施し、結果に基づき改めて保護協議することとした。調査に際しては敷地内の建物計画位置にトレンチ2箇所を設定し、重機により表土等の掘削を行った。調査区等の測量を(株)小林コンサルタントに委託して記録のうえ調査区を埋め戻し、同日中に現地作業を終了した。

調査結果

層序：表土40～60cm、暗褐色土層20～30cm、明黄褐色シルト質壤土層（ローム質層）となる。明黄褐色シルト質壤土層の上面で遺構を検出した。

遺構：ピットを1基検出した。直径30cm程度で平面不整形である。平面検出にとどめたため、時期・性格等は不明である。

遺物：トレンチ1の埋土中から若干の土師器片が出土した。図示した破片（図24-1・2）は土師器甕の口縁端部と頸部の破片である。口縁部がラッパ状に外反するもので、時期は古墳時代後期に位置づけられる。

調査後の経過・所見

建物によって破壊される範囲の遺構分布は希薄であり、本調査は不要と判断したが、古墳時代後期の遺物が出土した。これまでの調査結果から、調査区周辺には古墳時代中～後期から奈良・平安時代の集落域が広がるものとみられる。今後計画される周辺の開発においては、特に慎重な対応が必要な区域といえる。

文献

飯田市教育委員会 1968 『内山・花の木』

飯田市教育委員会 1998 『内山遺跡』

飯田市教育委員会 1996 『久保尻遺跡』ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書

飯田市教育委員会 2021 『久保尻遺跡』Jアみなみ信州竜丘支所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

12 恒川遺跡群（第109次調査）

調査地	飯田市座光寺 3543-5	担当者	坂井勇雄
調査原因	倉庫建設	遺構	なし
調査面積	2.9㎡	遺物	なし
調査期間	令和3年3月10日		

遺跡の概要

恒川遺跡群は飯田市街地北東約3kmの座光寺地区に位置する。かつて弥生時代の大遺跡として知られていたが、国道153号線や沿線の開発工事等に伴う発掘調査が進展し、確認された掘立柱建物や礎石建物の列や区画溝が古代官衙に伴う正倉院の遺構と考えられるに至った。平成26年に信濃国伊那郡を統治した伊那郡衙の跡地と評価され、「史跡 恒川官衙遺跡」として国指定を受けた。市教委では、保存活用計画（飯田市教育委員会 2016）を定め、恒川遺跡群の開発において特に注意し、官衙の領域の把握に努めている。

調査の経緯と経過

民間事業者が当遺跡の南西部池田地籍で倉庫の建設を計画した。当該地は保存活用計画において官衙域の把握に努めるべき「B地区」であることから、開発前に範囲内容確認のための調査を実施することとした。敷地内にトレンチを設定し、令和3年3月10日に重機を搬入のうえ、表土等の掘削を行った。調査区等の測量を（株）小林コンサルタントに委託して記録のうえ調査区を埋め戻し、同日中に現地作業を終了した。

調査結果

層序：造成土30cm、旧耕作度20cm、暗褐色土40cm、にぶい褐色土（上面が遺構検出面）となる。これは隣接する第74次調査地点で確認した層序とほぼ同じ堆積状況である。

調査後の経過・所見

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。過去に周辺で実施した第58次、第74次の各調査においても官衙に関係する遺構は存在せず、今次調査によって伊那郡衙の域外であることが改めて確認された。

文献

飯田市教育委員会 2016 『史跡恒川官衙遺跡保存活用計画』

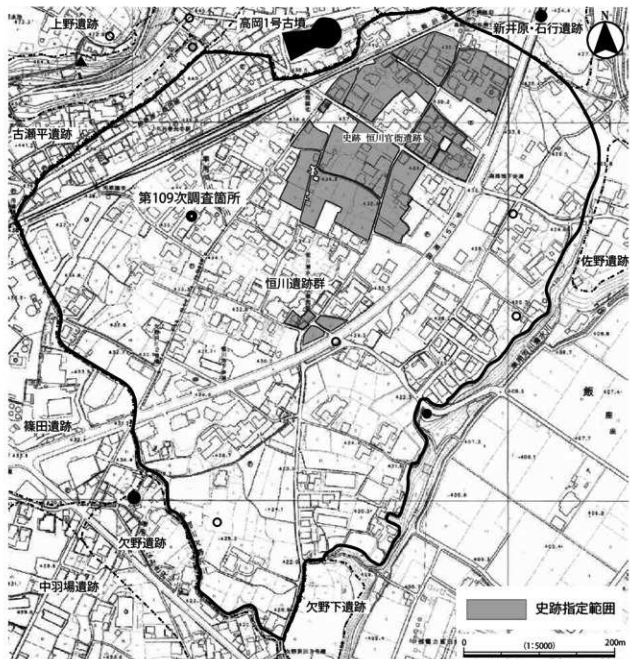


図 25 恒川遺跡群 (第109次調査) 調査位置および調査区



新地遺跡調査前



新地遺跡調査区全景



新地遺跡調査区土層



別府中島遺跡調査中



別府中島遺跡調査区全景



別府中島遺跡調査区土層



古城跡調査前
(主郭北側から南方向)



同上
(主郭内側から北方向)



同上
(主郭北の空堀跡)

写真図版 4



古城城跡トレンチ 1 全景



古城城跡トレンチ 1
堀 1 検出状況



古城城跡トレンチ 2 全景



古城城跡トレンチ2土層



古城城跡トレンチ3全景
および掘1検出状況



古城城跡トレンチ3土層



古名城跡工事立会時検出 堀3 (左奥に堀2)



古名城跡工事立会時検出 堀1



古名城跡工事立会時検出 堀2



今洞遺跡調査前



今洞遺跡調査区全景



今洞遺跡調査区土層



清水上遺跡調査前



清水上遺跡調査区全景



清水上遺跡調査区土層



花立遺跡・流田遺跡調査前



同上(流田遺跡T3付近)



篠田遺跡調査前



花立遺跡 T 1 全景



流田遺跡 T 3 全景



流田遺跡 T 4 全景



流田遺跡 T5 全景



流田遺跡 T6 全景



流田遺跡 T7 全景



流田遺跡 T8全景



流田遺跡 T8土層



篠田遺跡 T1全景



妙前遺跡・妙前大塚古墳
調査前（奥に妙前大塚古墳）



妙前遺跡・妙前大塚古墳
調査区全景



妙前大塚古墳墳裾付近葺石



妙前大塚古墳周溝



同上



観音原遺跡調査前



観音原遺跡調査区全景



観音原遺跡調査区土層



切石遺跡調査前



切石遺跡調査区全景



切石遺跡調査区土層



内御堂東遺跡調査前



内御堂東遺跡調査区全景



内御堂遺跡調査区土層



内山遺跡・久保尻遺跡調査前



内山遺跡・久保尻遺跡
調査区全景



内山遺跡・久保尻遺跡
トレンチ1土層



恒川遺跡群（第109次）
調査前



恒川遺跡群（第109次）
調査区全景



恒川遺跡群（第109次）
調査区土層



市内遺跡緊急発掘調査出土石器



市内遺跡緊急発掘調査出土土器・埴輪

報告書抄録

ふりがな	へいせい30ねんど～れいわ2ねんど しないいせききんきゅうはつかつちょうさほうこくしよ							
書名	平成30年度～令和2年度 市内遺跡緊急発掘調査報告書							
副書名								
編著者名	春日 宇光							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地							
発行年月	2022年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 番号	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新地遺跡	飯田市龍江2271-1	20205	—	35° 27' 15"	137° 49' 45"	2018/6/28	3.38㎡	個人住宅
別府中島遺跡	飯田市上郷別府2051-1	20205	86	35° 30' 43"	137° 50' 30"	2018/10/15	16.0㎡	浸透櫛
古城城跡 飯沼南原遺跡	飯田市上郷飯沼3233-1、 3233-2	20205	1078 85	35° 30' 54"	137° 50' 38"	2018/12/30	52.0㎡	宅地造成
今洞遺跡	飯田市川路1906-3	20205	402	35° 27' 26"	137° 48' 44"	2019/5/8	13.42㎡	個人住宅
清水上遺跡	飯田市松尾清水4564-4	20205	190	35° 29' 06"	137° 50' 39"	2019/7/10	10.5㎡	個人住宅
花立遺跡 流田遺跡 篠田遺跡	飯田市座光寺3824-3地	20205	34 42 39	35° 31' 51"	137° 51' 20"	2020/3/9 ～ 2020/03/13	251.33㎡	宅地造成 道路
妙前遺跡 妙前大塚古墳	飯田市松尾新井6245-7	20205	182 711	35° 30' 11"	137° 51' 09"	2020/6/15 ～ 2020/06/17	22.96㎡	個人住宅
観音原遺跡	飯田市下久堅下虎岩 285、286、288	20205	426	35° 29' 40"	137° 51' 51"	2020/8/4	37.16㎡	牛舎
切石遺跡	飯田市勝切石4075-16	20205	152	35° 30' 37"	137° 48' 37"	2020/8/31	29.81㎡	宅地造成
内御堂東遺跡	飯田市下久堅知久平428	20205	444	35° 28' 35"	137° 51' 17"	2020/10/12	11.37㎡	道路
内山遺跡 久保尻遺跡	飯田市桐林957-3地	20205	219 221	35° 28' 28"	137° 49' 37"	2021/2/9	8.91㎡	店舗
恒川遺跡群 (第109次調査)	飯田市座光寺3543-5	20205	38	35° 31' 58"	137° 51' 40"	2021/3/10	2.9㎡	倉庫

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新地遺跡	散布地	中世	なし	なし	包蔵地を改訂(削除)
別府中島遺跡	集落跡	縄文 弥生 古墳	なし	縄文土器、打製石斧	
古城城跡 飯沼南原遺跡	城館 その他の遺跡	中世 縄文	堀	なし	遺構を保存
今洞遺跡	集落跡	縄文	ピット	なし	
清水上遺跡	集落跡	古墳	方形周溝墓	なし	遺構を保存
花立遺跡 流田遺跡 藤田遺跡	散布地	古墳 中世	なし	なし	
妙前遺跡 妙前大塚古墳	集落跡 古墳	縄文 弥生 古墳	妙前大塚古墳 周溝・墓石	埴輪	遺構を保存
観音原遺跡	散布地	中世	ピット	なし	
切石遺跡	集落跡 その他の墓	縄文 古墳 平安	ピット	なし	
内御堂東遺跡	集落跡	縄文 古墳 中世	なし	なし	
内山遺跡 久保尻遺跡	集落跡	縄文 古墳 奈良	ピット	土師器	
恒川遺跡群 (第109次調査)	集落跡 官衙跡 その他の墓	弥生 奈良 平安 中世	なし	なし	
要 約	平成30年度から令和2年度にかけて国庫補助事業として実施した12件の市内遺跡緊急発掘調査報告				

平成30年度～令和2年度
市内遺跡緊急発掘調査報告書

2022(令和4)年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市大久保町2534番地
長野県飯田市教育委員会
印刷・製本 龍共印刷株式会社